

令和8年度 保健師職能集会／助産師・保健師職能合同研修会



令和8年6月27日（土）山口県看護研修会館において、令和8年度保健師職能集会が開催されました。併せて、助産師職能と合同で研修会が開催され、保健師23名、助産師11名の参加がありました。

研修会では、保健師と助産師の連携を深めることを目的とし、また、妊産婦の精神疾患への理解と支援をより深めるため、昨年度に引き続き、山口大学大学院 医学系研究科精神科神経科の野田稔子医師をお招きし、「精神疾患を疑う妊産婦の支援～緊急性のアセスメントと精神科医療の連携～」と題してご講演をいただきました。

その後、助産師・保健師が圏域に分かれグループワークをしました。テーマは『妊産婦さんの支援の現状と関係機関との連携のあり方』で、保健師と助産師が日頃の活動の現状をふまえて何ができるかを話し合いました。



◆講演:精神疾患を疑う妊産婦の支援～緊急性のアセスメントと精神科医療の連携～ 講師 野田稔子氏(山口大学大学院 医学系研究科精神科神経科助教)

周産期における母親の心理や精神の不調が子育てに及ぼす影響、うつ病・双極症・不安症・強迫症・パーソナリティ症などの精神疾患について丁寧に説明いただきました。

妊産婦さんの中にはすでに精神科の治療を受けている人、治療や服薬を終了または中断している人、まったくこれまで医療にかかっていない人などの状況の方がいらっしゃると思いますが、支援者がそれまでのその人らしさや普段の様子からの変化＝感じた「違和感」を見過ごさず、異変を早期に察知することの大切さ、それとともに生活上の機能低下に目を向け、それまでやれていたことが出来なくなっていないかなどに着目し、精神科受診を考慮する必要があることを学びました。



<ご講演に関する参加者の感想>

- ・周産期の母親の精神状態からみられる精神疾患について学んだうえで、具体的に医療につなげるべき対象やつなげ方を学び、非常にわかりやすかった！
- ・違和感、その人らしさが失われていることに気づくためには日ごろからの関わりや支援者との情報共有なども大切にしたい。
- ・精神科受診を進めていく上では、妊産婦さんやその家族の心情や状況を理解し、共感的な姿勢で丁寧に対応をしたい。

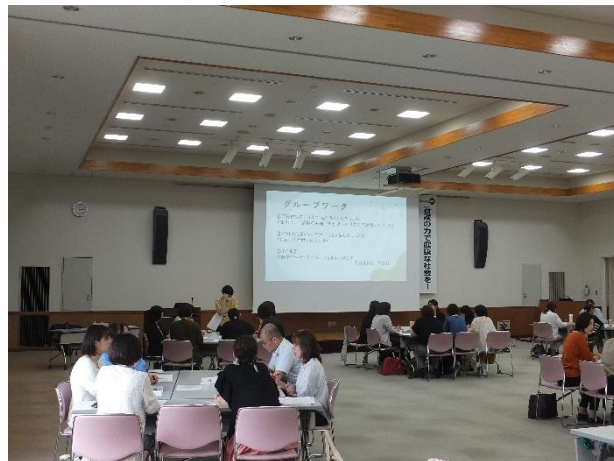
◆グループワーク:『妊産婦さんの支援の現状と関係機関の連携のあり方について考えよう』

さまざまな所属の保健師や助産師が妊産婦の支援について情報交換や意見交換を行い、現状から私たちに何ができるか、何をしていくべきかを考えることができました。

今日出会った仲間との出会いを大切に、今後の保健師・助産師活動に活かしていきたいと思います。仲間と話をして元気がもらえ、新たな発見もありました！

<グループワークの発表>

- ・不安感が高くなっている妊産婦が多くなっている印象。保健師と助産師の役割がつながっていく必要がある。
- ・精神状態が悪くなりかけている状態で早めに把握し、助産師と保健師が相互に連携して支援ができるとよい。
- ・医療機関等から情報提供を受けて支援をしている保健師の医療機関等へのフィードバックがきちんとされていないことに気づいた。
- ・連携は、人が変わっても組織と組織がどんな時でもできるようにしていくことが大切！



<グループワークの感想>

- ・助産師さんの関わりや思いを直接聞けて、とても参考になり、楽しく、つながりもできた。
- ・いろいろな立場からの意見で、視野が広がり、励まされ、明日からの活力につながっていくと思う。
- ・これから、困難ケースでもあきらめずに相談したり、連携を密に取りたい！

合同集会の前に、保健師職能集会が行われ、林職能委員長より、令和7年度事業報告、令和8年度事業計画、令和8年度日本看護協会通常総会報告が行われました。

今後も皆さまのスキルアップや保健師同士のつながり、多職種との連携のお手伝いができるよう、今後も研修を企画していきますので、皆様の参加をお待ちしています。

山口県看護協会保健師職能委員

